

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	児童デイ ほほえみ		公表日		2025年 3月 31日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	9		広い1室を利用し、場所ごとに取り組める内容を分けている。また障がい特性で配慮が必要な時などに対応する別室を設けています。	長期休暇中などは、利用人数や発達特性等を配慮し、スペースの調整を行っていく。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	9			職員配置が適切に配置できるよう、勤務体制を整えていきます。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	9		バリアフリー化されており、車椅子やバギーをご利用の方が通りやすい作りになっています。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	9		清掃はごまめにし、清潔で過ごしやすい空間にしており、活動に合わせて安全に活動できる空間になっている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9		必要に応じて別室で過ごせるように、環境設定を行っています。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	7		月1回のデイ会議で話し合い、参加できなかった職員には個別に対応しています。	ミーティングで決定した内容を職員全員で実行継続できるように引き継ぎノートを活用する。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		年に1回保護者様でアンケートや意向調査を実施し、改善に努めています。	実施した結果や内容、改善点などを職員がいつでも見られる場所に掲示し業務改善につなげられるよう努めます。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		月1回のデイ会議で意見交換し、必要があればその都度話し合いの場を儲けている。	意見が業務改善につながるよう、決定事項が確実に周知できるようにノートも活用していく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	2		第三者外部評価は行っていません。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	9		事業所内で各職種別の研修、法人内での研修も行っています。	外部研修については伝達研修を行い、もっと共有できるよう環境調節を行います。
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9		作成されており、今年度中の公表にむけて調整しています。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7	1	毎月お子様ごとに相談員さんに提出用のモニタリングを作成しています。それをもとにアセスメントを適切に行っています。	お子様、保護者様、児発管、担当職員で、定期的な面談を行いニーズの把握やアセスメントにより支援計画作成していきます。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7		作成する際は担当者会議を開き、放課後等デイサービス計画の作成を行っています。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7		保護者様の同意を得られた計画を職員間で共有し、支援が提供できるように努めています。	特にパート職員は計画を目にする機会が少なくなるため、デイ会議やミーティングなどで周知を徹底していきます。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7		日々の行動観察はしているが、アセスメントと連動していない。	アセスメントシートについて分からない職員がいたため、ミーティング、会議等で勉強会を行っていきます。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドライン	9		放課後等デイサービスのガイドラインに沿って、必要な項目や支援内容を設定しています。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	9		常勤職員が中心となり、他の職員の提案も取り入れながら、活動プログラムの立案を行っています。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8		誕生日会や季節の行事を多く取り入れ、固定化しないよう心がけています。	コロナ禍以降外出の機会が減ったため、長期休暇等を利用して徐々に社会との繋がりを持つようなプログラムも取り入れて行きたい。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		児童デイ ほほえみ				公表日	2025年 3月 31日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	9		個々のやりたい気持ちに寄り添い、個別活動や小集団での活動を支援している。		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9		開始前にミーティングを行い、チームで連携して支援を行っています。		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8		支援の内容は毎回リトムへ記載し、気になることがあればその都度話し合います。	支援終了後に参加できない職員には、ノートや口頭での伝達を行っています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9		担当者が記録し、支援の検証、改善を行っている。		
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9		毎月モニタリングを行い、必要があれば計画の見直しをしている。		
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	7		地域交流は地域の行事がある時に行い、普段はその他3つの基本活動を組み合わせ活動している。	地域の行事などがあれば、積極的に参加していく。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7		自らの「やりたい気持ち」を大切にだけでなく、その中でルールを守る事を徹底し、社会性を身につけています。	自らの言葉で伝える事ができない利用者様には、行動・表情・態度などから読み取っていきます。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9		自発管とよく関わっている職員が参画しています。		
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	9		担当相談員、他の事業所等と連携を取りながら支援にあたっています。		
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	9		下校時刻の確認など学校と連絡を取り合っています。		
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	7			対象となるお子様がいません。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	9		主に担当相談員さんを通して行っています。個々の問い合わせに応じ、情報提供しています。		
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	9			児童発達支援センターの合同研修会に今後も積極的に参加していきます。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	4	2	地域の行事などや、こちらの季節の行事などを利用して地域の子ども達との交流を図っています。		
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	4	2		積極的には参加できていないため、今後は参加できるよう調整していく。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7		リトムに記載したり、送迎時に保護者の方と直接お話ししています。		
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	2		家族支援プログラムの提供は出来ていませんが、今後行っていくために職員が研修を受けるようにし、研修を受けた職員を中心に実施に向けて検討していく。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7		契約時に重要事項説明書と契約書について説明をしています。		
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9		必要に応じて個別に相談に応じています。リトムや送迎時に保護者様との会話から悩みに傾聴するよう心がけています。	職員の経験や知識不足を研修や勉強会などで補い、相談に応じていけるようにしていく。	

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	児童デイ ほほえみ		公表日		2025年 3月 31日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
保護者への説明等	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7		放課後等デイサービス計画書の説明を行い、保護者の方にサインをいただいています。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9		保護者の方からの相談に個別で時間を作り対応しています。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6	1		保護者会や参観を開催し、保護者同士が交流できる機会と場所を提供していくよう努める。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	9		苦情の際に講じる措置の概要を出入口の掲示板に掲示している。苦情はミーティングで共有しています。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7		月に1度たよりを発行し、お子様の写真を貼ったり、活動内容などを分かりやすくお知らせしています。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9		個人情報は鍵の付いた棚で保管するなど十分に気をつけています。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7		個々の特性に合わせて支援しています。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6		夏祭りを開催し、地域の方々や子どもにかき氷を無料配布しています。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定するとともに、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7		それぞれのマニュアルを作り、職員に周知しています。	マニュアル等を保護者にも、毎月のたよりなどで分かりやすく発信していく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	9		消火器の使い方等、地域と合同の大規模な訓練は年1回。事業所での訓練は2か月に1度行っています。	訓練の様子をもっと発信できたらと思う。訓練に参加できなかった職員にも徹底していく。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	9		服薬の時間等をリトムを使って確認し、保護者への報告を行っています。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7		現在アレルギーの利用者様はいません。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9		安全に対する研修・訓練を定期的に行っています。	今後も安全管理が十分にされた中で支援が行えるように研修、訓練を行っていきます。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5	1		保護者様への周知が徹底されていないため、取組み内容を定期発行物で知らせる。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7		ヒヤリハットを皆が見やすい場所に置いて共有しています。	新たなヒヤリハットがあった場合は、ミーティングで再発防止を話し合い、書いた書類に必ず目を通すよう徹底する。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9		デイ会議で、虐待に関する研修を定期的に行っています。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7		身体拘束については、障がい特性によって異なるため個々に書類を作成し、説明と了承を得て行っている。	個々の身体状態によって見直しが必要な部分を見直して、固定化しないように話し合っていく。	